

教育目標	「学園は教える者と、教えられる者とは、相互の信頼によって生かされる精神的な共同体である。」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。							
経営方針	(1)「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にす豊かな情操」を培う。 (2)「日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアリーダーとしての資質を培う。							
本年度重点目標	I 知育の推進 II 徳育の充実 III 健康な身体育成 IV 豊かな生活の追及 V 家庭地域との連携 VI 生徒募集 VII 教育施設設備の活用							
重点目標	評価項目	令和05年度 具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	令和05年度の実施状況	期末 R6,3月	職員評価	職員コメント ◇:提言 ▲:改善 集計・まとめ 期末 R6,3月	関係者評価	委員コメント ◇:提言 ▲:改善 集計・まとめ 期末R6,4月
I 知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に 向け啓発・ 学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施 3grp編成と運行の工夫 英検3/P2/2級指導(放課後等) ② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 ③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT活用:スタディサプリ運用の工夫 デジタル教材の運用の工夫 放課後プロジェクトの活用 :放/P 授業のライブ配信 ④ 進路講演・キャリア教育等啓発指導・活動を実施 上級生、OB、進路担当、外部講師招へい ※MIRAI Project構想(M/P) 企業と提携しキャリア教育推進 ⑤ 学力推移調査前後の学級/学年指導 個別目標設定や情報共有(中高関係職員) ⑥ 授業計画、副教材の見直し ⑦ 学習時間記録(スタディマーカー)と個別/一斉指導 学習状況把握とフィードバック(FB)による 学校家庭間指導環境改善	① 各学年英数の3grp習熟度編成を実施。時期、編成変え等は学年の実情に合わせた。各生徒の意志や学力向上をふまえ、柔軟な対応が欠かせない。 ② コミュニケーションによる情報共有によって目標を意識した。平素の学習に小テスト、課題、演習が適度に取り組みされており、堅実な学習が継続された。 ③ 放/Pは当初に登録を各HR実施。2F理科室・206/図書室後席/HRにて自主学習を主に、指名も織り交ぜた。会場では生徒は固定傾向、会場外(HR)では同時間帯に学習する生徒が増加した。日時・時間・担当を固定化して良かった。ICT活用についてはほぼ前年度の踏襲にとどまった。 ④ 2月にJ3対象進路講演、9月にJ2キャリア教育(A/C中)を実施。M/Pは全学年に拡大。(株)トゥフェイス・リサーチ・インスティテュートが提供する「TWICE PLAN」の「企業インターワーク」を活用し、企業インターン体験活動を行った。課題をG/Wで考え、解決策や提案を導き出す。後期MD等の時間で計画的に学習し、プレゼンに繋がった。 ⑤ 実力テストの結果に基づいて情報を共有し、事前事後指導や授業に活かした。学年・部内で学力向上に向け計画的に学習指導を継続したい。 ⑥ 副教材の変更は特になし。運用に調整を多少を行った。 ⑦ 学習計画指導や記録等を書き残す際の手だてを相談して定めておきたい。運用方法や周知については学校側から工夫し、公開していきたい。懇談会等々において説明報告していきたい。	A 26% B 51% C 13% D 10%	▲ 環境は整えられているが、生徒の気持ちをなんとかしていきたい。家庭と連携して実践に力を入れていきたい。 ・ 難関大学への進学状況を見ると内進生の活躍がうかがわれる。 ・ 授業に落ち着いて取り組み、自己の課題に向けて努力している。 ・ 中学でも放課後プロジェクトが立ち上がり、日常的に学習を行う生徒の受け皿となったと思う。学力向上に直結したかの検証はこれから。 ・ 個々の学力差が大きいため、基礎的な内容が多くなってしまいが、なるべく難問にも挑戦している。 ・ 高校部と連携しながら、相互理解を深めながら行っている。 ◇ 放課後プロジェクトの参加者が少ない。 ◇ スタディサプリの活用について要検討である。 ◇ 6年間のカリキュラム策定が必要ではないか。 ▲ 内進クラスの学力を向上させ、内進クラスで希望の進路を実現したいという環境を作ることが必要だと感じる。 ▲ 中学部の教員は遅い時間まで残っているが、時間活用をもちろ創意工夫し、生徒に還元すべきではないか。 ◇ 英語に関して体系的な指導を充実させるべき。 ▲ 中学卒業までの具体的な指導目標を構築するべきである。 ▲ 英会話授業に関して学校側からネイティブ講師に対してどのように授業を進めていくか提案すべき。 ◇ 指導の連続性を鑑み、「先取り学習」的な内容を行うプロジェクトを立ち上げてはどうだろうか。 ▲ 上位層の成長が頼もしいが、下位層を向上させる手段を講じたい。様々な手段を講じてボトムアップをはかりたい。 ◇ 英語における3クラス編成の効果はどうか。	A 12% B 88% C 0% D 0%	◇ 内進生が高校進学次内進クラスにいることのメリットを見出し、6年間のスパンで体系的なカリキュラムを組んでほしい。 スタディサプリの家庭での活用状況はどうか。 ◇ キャリア教育の実施は自主性も育まれ、生徒の今後にとってプラスとなる。中学から入るのは中高一貫としての大学進学を考えて入るためであり、それに合った内進クラスの学力向上に力をいれてほしい。 高2までに高3の学習を終えていないのかだろうか。 ◇ 放課後プロジェクトの通知を知らなかった。さくら連絡網で通知がほしい。 ◇ 高校部との連携を取り合い、内進生全体の学力向上を試みてほしい。 ◇ 全体の成長が見られるように手立てを工夫しては。 ◇ ICTやスタディサプリの活用は検討事項だろう。 ・ 中学時からの難関大学進学に向けての指導は私学明誠ならではのことだと思う。	
外部模試等で 学力把握 在籍 J3 72名 J2 68名 J1 63名	① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64以上 60以上 50以上 40以上 J3 3% 5% 21% 38% J2 3% 4% 24% 40% J1 5% 8% 26% 55% J1は第一四半期後設定する。 ※ それぞれの数値は単純の数値を表す ② 実力確認テスト(明誠高校入試)受験 J3:目標進路の学力水準達成 五科目 J2:基礎基本問題の習熟と確認 三科目 ③ 英検受験 年度末(2月)の時点 【J3 準2級以上 14% 3級 46%】 【J2 3級以上 40% 4級 35%】 【J1 4級以上 35% 5級 45%】 J1は第一四半期後目標設定する。 ※ それぞれの数値は単純の数値を表す ※ ()内の数値は昨年度の数値を表す ④ 各試験結果受取後の一斉学級/学年指導 情報や目標の共有 (中学部・高等部・教科担当)	① J3 9月② 64以上-0% 60以上-7% 50以上-20% 40以上-43% 4月① 64以上-0% 60以上-4% 50以上-14% 40以上-45% 最上位層育成とボトムアップに課題が残った。 ボトムアップのための啓発と環境づくり、毎日の具体的な対策が大事であることを改めて痛感した。 J2 1月③ 64以上-2% 60以上-4% 50以上-29% 40以上-47% 9月② 64以上-3% 60以上-3% 50以上-20% 40以上-47% 4月① 64以上-0% 60以上-3% 50以上-26% 40以上-32% 学習意欲等徐々に向上している流れもあり、適切に活かしていきたい。 改善されない者も根気強くケアしていきたい。 J1 1月③ 64以上-2% 60以上-5% 50以上-34% 40以上-41% 9月② 64以上-2% 60以上-6% 50以上-32% 40以上-44% 4月① 64以上-3% 60以上-3% 50以上-27% 40以上-53% さらに良い学習環境づくりを工夫していきたい。 発達段階を意識し、啓発を行い具体的に目標を持たせたい。 ② J3 日頃の努力の成果を確実に発揮した者もいた。一方では準備不足が明らかに目立つ者も多少見られた。 学習環境づくりや日々のトレーニングなどについて改めて振り返り、次の一歩を踏み出させていきたい。 J2 概ね例年同様だが既習事項に対してできる範囲内で解答できている。学習環境づくりによく留意し、3年次の学習計画をたて、目標を成果を意識した学習に取り組ませていきたい。 ③ 2月 2級-4(12)% 準2級-18(24)% 3級-38(37)% 4級-21(15)% 5級-13(10)% J3 10月 2級-1(6)% 準2級-14(25)% 3級-40(37)% 4級-26(16)% 5級-13(13)% 準1級-0(0)% 昨年に比べ上位層の層が薄くなったが、全体的な底上げは徐々に進んだ。 J2 2月 2級-1(1)% 準2級-16(9)% 3級-27(32)% 4級-25(44)% 5級-10(16)% 10月 2級-0(1)% 準2級-6(3)% 3級-18(27)% 4級-31(47)% 5級-22(17)% 通年底上げが進み、後半中上位層のモチベーションも上がってきた。 全体で一層盛り上がっていく環境を工夫していきたい。 J1 2月 2級-0(0)% 準2級-3(0)% 3級-17(14)% 4級-35(25)% 5級-38(32)% 10月 2級-0(0)% 準2級-2(0)% 3級-6(7)% 4級-34(19)% 5級-39(35)% 1級-2(0)% 通年受験意欲が良く、結果も出ている。功を焦ることないようにしたい。 ④ 現状把握と対策について、教科担任と学年職員の間距離が出ないように注意し、同じ目標に向かっていく姿勢がどうか振り返ってみたい。	A 28% B 47% C 10% D 15%	・ 例年実施しているベネッセ学力テストにより、現状把握がなされている。 ・ 詳細はわからないが、結果を見ると充実しているのではないかと思われる。 ・ 定期的に外部模試があるので、自己の学習レベルの確認ができる。 ◇ 結果の分析とその後の対策が不十分では。 ◇ 外部模試を理科・社会もできないか。 ・ 大学進学のための基準となる偏差値を共通理解している。 ▲ ボトムアップがなかなか難しい。 ▲ 年々学力が下がっているのでは。 ◇ 各学年で一定の割合で学習状況が厳しい。その対策をおこなってきたい。 ・ 模試対策の時間があまりとれていない。 ▲ 高校部でその結果を共有したことがない。	A 12% B 76% C 0% D 12%	◇ 大学進学のための貴重な機会である。共有を図りボトムアップ等々成績向上に繋がることを期待する。 ▲ 自己学習のレベル確認が出来て良いと思う。そこから弱点をきちんと復習してほしい。対策が大事であろう。 ▲ きちんと結果分析し、把握はできているようだが、それをどのように共有し、改善していくのが見えにくいのでは。 ◇ 上層部はもちろん、中下位層に対しても伸びしろがありと捉え、中高一貫のメリットを活かして指導してほしい。		

I 知育の推進	生きる力や総合力を はぐくむ活動の設定	<p>① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・広報・見える化・発表等の総合育成の場を工夫設定 行事ごとの一斉指導 手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project構想：企業と提携しキャリア教育推進 J2・J3 10月～2月 ・体験入学プレゼンと校内ツアー実施 J2 6月 ・母校訪問と近況報告PR J1 7・8月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師／助手 内進生J1～S1 通年</p> <p>② 実行委員会を組織した委員会・生徒活動実行委員会と委員会の主体的な目標設定・活動の見える化</p> <p>③ 発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励するピブリオバトル等発展的活動の取り組み成果のアウトプットと共有、周知</p>	<p>① 自己振りかえりシートを通年活用。活用の度合いは学年により多少異なった。行事レポートの内容については、自己の考察の部分がさらに必要であると思える。事前事後指導によるところが大きい。 活動発表の場はMIRAI Projectが最大の発表ステージに拡充成長した。学年内の中間発表から、J2J3の合同発表及びJ1のO/L受信を実施。J1の母校訪問は全方位的な学びの機会となった。今年度も時期、手立てなど段取りよく実施できた。この事後指導の見える化を行っていくことも有効だと思う。J2の中学体験入学ツアーでは、小学生たちを明朗かつ気配り良く引率説明することができた。事後指導で振り返りをよく行わせ内容や手立てと共に、いかに明誠ファンをつくるか検討してきた。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動が積極的安定的に取り組まれた。生徒の独創性や視野も拡大した。後輩や下級生の模範としての役割もよく果たした。</p> <p>② 中学生徒会の取り組みが行事や園芸等を主に継続的に実践された。3送会(3月)など自発的に取り組んだ。他委員会への呼びかけも期待される。</p> <p>③ 読書が習慣化し、休み時間等においても読書をしている生徒を見かける。上級生の姿は下級生にとって範となり、全体に良い影響をもたらしている。この点は昨年度より若干向上している。次のステップの施策は途上である。</p>	<p>A 36% B 49% C 3% D 12%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MIRAI Projectを実施し、将来的なビジョンを多少掴めたのではないが。 ・プレゼン等を通して、表現力が磨かれている。 ・丁寧な指導が行われていると思われる。 ・授業以外のイベントを数多く設定し、共通体験を通じて社会的集団の中における自制心を育てている。 ・社会の流れと中学生としての自己の位置を確認することは、大変難しいことなので、丁寧な指導が必要となる。 	<p>A 12% B 76% C 0% D 12%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良い試みが見られる。通常の座学で時間を割くのが大変だと思うが、社会勉強として重要な位置づけのものと考えられえ。 ・体験活動を通して早くから主体性を高められるのは良い。 ・たくさんの体験活動が行われておりとても良い。 ・中学時代に必要な内容が充実しており感謝している。 ・母校訪問や入学ツアーなど教科学習以外で生きる力を見につけられ、生徒にとってとても良いことだと思う。 <p>◇ 中学時であればその知育の推進をお願いしたい。</p>
日本文化理解と国際教養養成 (総合学習)	<p>① 日本文化理解行事実施【(2)回/年】 J1 自然体験・富士山学習、地域探訪 J2 寺社宿泊研修、企業/都市探訪 J3 寺社・精神文化調べ、企業研修、地域・古都研修</p> <p>② 講演や交流会の実施・探求活動 J1 郷土・企業 J2 医療・企業・進路 J3 医療・企業・進路</p> <p>③ 英会話授業【週1回】とアウトプット実践 J1～J3</p> <p>④ 禅寺の活用</p> <p>⑤ 日本文化・国際教養講話/講演実施</p>	<p>① J1 4月国立中央青少年交流の家研修、10月竜ヶ岩洞、フラワーパーク、エアーパーク、浜松城・大河ドラマ館等探訪。昨年度県西部が復活し、時宜良く徳川関連の研修を取り入れた。</p> <p>J2 4月可睡齋宿泊研修。10月東京・横浜オータムキャンプ、1日目科学技術館(千代田区)、JICA(市ヶ谷)、東京大学(文京区)卒業生講演(2名)、アジュール竹芝宿泊テーブルマナー学習(文京区)、2日目産官学マッチングサポート、中華街屋敷、日本新聞館(中区)見学。卒業生講演2名招待は初めてだった。JMU(造船)研修がなくなり、マッチングサポートで国連WFP協会、神奈川県住宅供給公社、横浜横浜環境保全(株)など見学し、選択肢を拡大した。</p> <p>J3 4月浜松城・大河ドラマ館、フラワーパーク、中田島砂丘探訪。10月関西修学旅行 往復のバスは2台に変更。目的地は厳選し行程に余裕を持たせた。食事は一部で部屋食を採用した。今年度も班研修はタクシーを利用(4年目)。自己研鑽と協働の要素がもっと盛り込めるとよいと思う。</p> <p>② J1 7月母校(校長先生)訪問、10月竜ヶ岩洞探訪、エアーパーク、浜松城 10月「違法薬物について」警察・学校薬剤師による講演 J2 10月「違法薬物について」警察・学校薬剤師による講演 10月OB東大生進路研修・公的機関公共サービス研修 1月「MIRAI ProjectJ1JTBIによる講評、「同インターン体験」発表・講評 J3 10月「違法薬物について」、1月「MIRAI ProjectJ2と共通体験、3月S3卒業生進路講演 「MIRAI ProjectJ1はJ2J3の同時展開を行い、最終の発表も合同で行い、J1はO/L視聴を試みた。概ね意欲的に取り組むことができ各面意味のある共通体験となった。テーマと発表や講評の段取り等について検討を重ねることによりさらによい学びになっていくと思う。</p> <p>③ TT授業で教科書章末スピーチ指導を実施。昨年度より反復学習面を重視した。</p> <p>④ J2 4月可睡齋宿泊研修実施。学校生活や行事等へ研修成果を活用することを継続的に配慮していきたい。</p> <p>⑤ 各学年の主要行事中の講義や説明を通して教養を高める機会を確保。</p>	<p>A 18% B 50% C 6% D 18%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数々の行事を通し、多面的に指導がなされていると思われる。 ・MIRAI Project は良い試みだと思う。 ・総合学習に取り組む姿勢が良くなっている。 ・修学旅行とを通じて、事前研修や事後指導などの定着率を確保する活動を通じて、理解を深めている。 ◇ グローバルな社会で生きていく必要性を呼びかけられている中で、日本文化を正しく、幅広く理解することをさせたい。 ◇ 「書道-文字、短歌-お茶」の企画はもう少し少人数単位で実施することが望ましいと思った。理由として講師の目や声が行き届かないこと、生徒の興味を引くインパクトがないことを挙げる。 ◇ 可睡齋での宿泊訓練および古都奈良・京都での修学旅行実施の機会を捉えて、さらに日本文化理解の講話や大勢の諸外国人と接する機会を設けられればと思う。 	<p>A 37% B 63% C 0% D 0%</p>	<p>◇ 自身で考え判断することがより重要となっている。様々な視点から日本並びに世界を見るきっかけになればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事があり、体験を通して将来に繋がる学びがある。 ・とても良い宿泊研修で、楽しく日本文化を学べて良い。 ・中学時代に必要な内容が充実しており感謝している。 ・様々な行事が場所をかえて行われ、色々な経験ができるのはよい。 <p>◇ 総合的な探求活動がより重要視されていくことを意識してほしい。</p> <p>◇ 国際教養を身につけたグローバルな人材の育成のために、先ず日本文化の理解を深める教育をお願いしたい。</p>	
II 徳育の充実	基本的な生活習慣の 確立・理解と自己 評価	<p>① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1回/月】</p> <p>② TPOに合わせた所作・マナー・学習態度等を発達段階をふまえて指導検証する 打合せ、中学部会等にて情報交換し一斉指導の手立てを共有する</p> <p>③ 私物貴重品管理 金銭、腕時計、スマホ・タブレット等整理整頓・清掃指導の徹底と振り返り</p> <p>④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的な生活習慣の確認理解と維持</p> <p>⑤ 基本的な生活習慣近況について情報発信</p>	<p>① 意識づけを集会指導で継続的に実施していきたい。 月例校風検査は男女別で継続実施。頭髪以外は担任によるフォロー指導を行った(2年目)。頭髪、つめの指導ムラに留意したい。また、各ボタンやネームなど指導が後手に回らないようにも注意。</p> <p>② SNS対策や人間関係等の対応に関してトラブルの芽をよく摘んだ。 学習や身だしなみの指導に関しては多少これに回った観もある。 中高一貫の意義を踏まえ、対面指導を即実践したい。</p> <p>③ 概ね適切に指導を継続することができたものの、生徒の日常生活には隙が多少あり、トラブルはいつでも起こりうることが事実である。油断することなく私物管理と啓発注意を行っていきたい。</p> <p>④ 前期は欠席等一部目立つものの、概ね良好であったが、後期においては流感やコロナ等の影響で増加傾向に転じた。目標や生活習慣など基本的な部分の振り返りや確認等も必要ではないかと強く感じるがあった。</p> <p>⑤ 各種アンケート、明誠ダイアリー等からの情報即共有し対策を講じた。 中学部通信においても多少、学校生活の情報を伝えた。</p>	<p>A 34% B 47% C 7% D 12%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活リズムが確立していることで、安定した生活を送ることができる。 ・明誠ダイアリー等を活用し、平日頃からの指導は重ねてきている。長欠対応についても指導を工夫していきたいと思う。 ◇ 入学時の申し送りが多く、対応について検討を要する。 ・生徒の言葉遣いに少々問題があると思われるが、おおむね良好である。 ・何度同じ間違いを犯しても、感情的にならずに、それは間違いだと言うことを、繰り返し言い聞かせる姿が見えた。 ▲ 欠席・遅刻・早退が増加した。 	<p>A 12% B 88% C 0% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね明誠生は他校と比較して律することができている方だと思う。 ・身だしなみがしっかりしていると生活リズムも安定していることが分かる。規律指導は大切である。 <p>◇ メイセイダイアリーの活用についてよくよく検討してほしい。</p> <p>▲ メイセイダイアリーの活用を中学時代よりきちんと習慣化してほしい。</p> <p>◇ 身だしなみ、マナー、私物管理などあたりまえにできる指導を継続していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳育の充実が藤枝学園の誇りである。

	特設道徳の充実と行動化	<p>① 本校理念の浸透、一斉道徳講話実施【6回／年】</p> <p>② ボランティアの実施</p> <p>③ 自律性と社会性を培う場を設定し実践力行動力向上を図るリーダーシップ・フォロワーシップ涵養</p> <p>④ 交通マナーの指導と実践交通安全教室実施</p> <p>⑤ 道徳教科書ノートを年間計画で使用学習の記録を振り返り、共有する</p> <p>⑥ 情報端末使用時の人権問題啓発指導講演実施と集会等で啓発指導</p> <p>⑦ 「いじめ」皆無の指導【調査3回／年】三配りの精神の涵養</p> <p>⑧ 成果や伸長について情報発信</p>	<p>① 1年合同実施3回、全学年合同実施3回を計画通り実施した。</p> <p>② 全員参加の取り組みは未実施。継続的に入試関連行事に登壇したり、有志の積極的な活動を行う生徒もいた。</p> <p>③ 主要行事の他に、中学入試関連行事・MIRAI Project探求活動等において自主的にチームワークを意識し活動することができた。</p> <p>④ 5月に警察による交通安全教室を体育館で座学を実施。前年度踏襲。同月交通安全展示を1F玄関ホールにて実施し、啓発を行った。</p> <p>⑤ 教科書・ノートの活用が弱まった。学習項目を満遍なく指導していきたい。</p> <p>⑥ 人権問題(主に対人関係)についての啓発や昨年度の反省を活かし端末の取り扱いのルールを徹底した。特に盗撮や録音、指示以外の時には端末は取り出さないなどの注意事項について指導を高めた。</p> <p>⑦ 「いじめアンケート」と「生活アンケート」を実施し、臨機応変に密な生徒指導をおこなうことができた。集会指導を通して三配りの精神について啓発を計画的に実施できた。即効薬としてではなく、長い目で取り組んでいきたい。</p> <p>⑧ 部会での情報共有や懇談会・面談を適切に機能させた。中学部通信の中学部通信の発行は月ごとの担当を決め、月次発行に努めた。近況や啓発、読書案内、予定などの内容を含め紙面が良く充実した。</p>	<p>A 29%</p> <p>B 50%</p> <p>C 3%</p> <p>D 18%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 週1の講話等、しっかりとできている。 様々な行事を実施する中で、建設的に行われている。 HRおよび道徳の時間を捉えて、恒常的になされていたかと思う。 MDでの学習内容が完結せず、道徳で補完することがある。多感な中学生での人間教育が欠かせないため、充実化が必要。 社会的な存在として自分を処すための価値観を構築する機会とした。 ▲高校生と一緒に生活しているが、まだ、落ち着いた生活ができないところが見られる。 ・教科書を用いた指導についてさらに配慮し、指導に臨んでいきたい。 ・挨拶ができなくなってきているのでは。 ▲校舎内で自転車を乗って行動している中学生が目立ってきたのでは。 	<p>A 0%</p> <p>B 88%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 中学生は高校生と異なる部分で指導の難しい年代である。中高一貫の特長を上手に活かしていただきたい。</p> <p>◇ 挨拶は大事なので誰にでも挨拶できる生徒を増やしてもらいたい。</p> <p>▲ 道徳的指導が足りていないように思える。</p> <p>◇ 明誠、私立ならではの道徳教育に期待したい。</p>
II 徳育の充実	個の尊重と主体性の醸成	<p>① 情報交換で個の把握【定例部会実施】</p> <p>② メイセイダイアリの点検、熟読とコメント</p> <p>③ 個別指導には、養護・カウンセラー・生徒課等チームの活用</p> <p>④ 中学生生徒理解研修会【全職員で実施】成長面・プラス面も共有</p> <p>⑤ 心理検査の実施と評価の活用</p> <p>⑥ 随時良い点や現れをフィードバック、全体で共有</p>	<p>① 日常的かつ定期的に情報交換し、迅速な指導を心掛けた。タイムリーに対応し、個人の尊重に配慮した。</p> <p>② 生活帳を活用し、意思疎通や問題解決に活かした。時宜良く点検を試みたい。</p> <p>③ カウンセリングをコンスタントに活用し、個別指導に活かした。外部組織の知見を活かし、指導の精度を向上させた。</p> <p>④ 生活や行動のあらわれを共有し生徒理解と指導の向上に努めた。中高一貫の生徒指導を意識していきたい。</p> <p>⑤ 検査は今年度も採用しなかった。各生活アンケートなどを活用し、生徒の様子を複合的に理解することに努めた。これらの情報の共有がとりわけ功を奏したと考える。</p> <p>⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションの確保に注意し、情報を共有し、対応できるよう努めた。</p>	<p>A 29%</p> <p>B 52%</p> <p>C 3%</p> <p>D 16%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体性のある生徒が多くなってきている。 ・気になる生徒に対してカウンセリングや保健室を積極的に活用して対応できたのは良かった。 ・義務教育の年代で発育段階の難しさはあるが、保護者対応も随時行い、保護者と三位一体化して対応がなされていたかと思う。 ・いじめ防止の為の教育活動を通じて他者を尊重する態度を養った。 ◇ カウンセリング機能の拡充を望む。 	<p>A 12%</p> <p>B 76%</p> <p>C 0%</p> <p>D 12%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の頑張りによるものである。引き続きよろしくお願い致します。 ・情報共有で共通認識を深めることができるのはよい。 ・今の中学生の不登校が多くなってきているなか、カウンセリングや保護者対応ができていてよい。 ◇ カウンセリング等を活用でているのは良いと思うが、依存度については心配な面もある。 ▲ メイセイダイアリーの活用に関してもっとアンテナを高めてほしい。 ・生徒との距離を縮めるためにもっと活用してほしい。 ・カウンセリングが充実されると保護者も安心するだろう。
III 健康な体の育成	団体行事の用意(団体行動や行事運営の基本も学習)	<p>① スポーツデイ実施【参加率98%以上、(2)回／年】相手・チームメイト・周囲への理解・敬意調和と切磋琢磨</p> <p>② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨事前の安定した生活習慣・体育での的確な準備啓発【参加率95%以上】</p> <p>③ 体育大会／中学部運動会の活用チームワーク醸成・団体種目の記録向上</p> <p>④ 武道奨励時数の確保武道実施ねらいの理解と浸透</p> <p>⑤ 部活動奨励【参加率85%以上】</p> <p>⑥ ダンスデイ実施明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行周囲への理解と感謝の気持ち創意工夫</p>	<p>① 7月 中学部運動会形式は今回は控え、サッカー(男子)やドッジボール(女子)を実施。参加率は約96%、全学年男女とも熱心に取り組んだ。3月同様にサッカー(男子)とドッジボール(女子)を実施。参加率達成。</p> <p>② 栃山川土手コースにて実施。J2の欠席が多少目立ったが、全体としては約90%の参加率であった。女子の割合が増えたため1組男子、2組男子・・・などのような4集団編成に変更した。概ね健全な内容、円滑な運営であったが、段取りは旧年内から始めておいたほうがよかった。引継ぎの際留意しておきたい。</p> <p>③ 中高体育大会では行進が簡略された(3年目)。制限は解かれた。少し遠慮が残りつつも元気が戻ってきた。できる範囲内で各種競技は行われていると感じる。中学生も元気に取り組んでいたと思う。</p> <p>④ 男子は武道の取り組みとして柔道を実施。柔道衣は着用しない。ねらいの理解と浸透について引き続き検討していきたい。</p> <p>⑤ 個性を伸ばさせつつ、集団育成する好機として参加を促している。加入率: J11: 84%, J12: 90%, J21: 94%, J22: 100%, J31: 92% J32: 95% 全体: 92.5% 前年度より1.5%減少。前年度より数%減少したものの概ね参加意欲は良好である。(部／本人によって活動率が低い場合もある・・・)</p> <p>⑥ 11月予定通り実施。参観者は開催中110名超でますます盛況だった。J3中心に役割分担を行い、終始円滑に会を運営していった。節度を適度に保ち活発に演技と鑑賞を楽しむことができた。昨年同様前後の挨拶をきちんと実行した方よい。授業であることをふまえ、事前事後指導を行いたい。</p>	<p>A 47%</p> <p>B 42%</p> <p>C 4%</p> <p>D 7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関して、事前・事後の学習指導も含めて執り行い適切な運営がなされていたかと思う。 ・行事も大切に教育している。 ・学校行事への取り組みは意欲的である。 ・様々な催し物が設定されており、多面的に行われている。 ・中学校高等学校という大きな学習集団の中で、様々な行事や活動を体験できていることで先を見通す力がついている。 ・豊富な体育活動および、球技大会や、ダンスデイ等の活動を通じて、健康増進を推進した。 	<p>A 100%</p> <p>B 0%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に積極的に参加している生徒が多い印象。楽しく精進するきっかけとなっているだろう。 ・様々な行事が実施されている。集団で活動する難しさを知ったり、生徒同士のきずなも強くなったり、協調性も学べる。よい機会である。 ・いろんな学校行事があつてよいと思う。 ▲ 生徒会とそれ以外の子供とうまく意思疎通がとれていない気がする。 ・ダンスデイを楽しんで見ることができた。 ・スポーツを通じ成長し、クラスの団結などにもつながる。 ◇ 行事は継続し、全員参加があたりまえのものになってほしい。 ・団体行事の充実には社会かに出てからおおいに役立つ。

IV 豊かな生活の 追及	特別活動や課外 活動の準備と充実	<p>① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探求:MIRAI Project MD内に設定</p> <p>② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創る力や実践力を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す</p> <p>③ フィールドワーク【(2)回/年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う 事前事後指導の充実</p> <p>④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の 改善に向けてヒントを得る</p> <p>⑤ 学習集団の向上(行事・授業等活用) プレゼンや議論を活かし、コミュニケーション 力や創意工夫する力、洞察力を上げる 学年混成集団で活動することにより、自他への 関心を深め、共通体験の価値の理解を深める</p> <p>⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深め、お互いに 学び合う仲間であることを自覚する</p> <p>⑦ 自分の長所・短所について行事ごとに振り返り、 自尊感情や自己有用感獲得に繋がるヒントを 得る</p>	<p>① 11月から「総合」の時間を十数～時間配当し探求活動を実施。 各学年は10グループに分かれ、模擬インターン体験を行いつつ、 課題を解決方法を考え、スライドにまとめた。G/WIによる探求 活動に拍車がかかった。</p> <p>② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡齋の展示をおこなった。 J3はアトラクションを展開。昨年度踏襲の活動となった。</p> <p>③ 4月と10月に予定通り各学年行事を実施した。 事前指導で深めておくことが重要だが、若干後手になっている傾向 を感じる、マンネリ化しないよう都度でいねいな考察が求められる。 芸術鑑賞教室ではスターライツによるゴスペルヴォーカルライブが 行われた。ゴスペルというほとんど関わりのない分野の生演奏を 体験し、新たに興味関心を引き起こしたのではないかと思う。</p> <p>④ ワークシートによる掲示を計画手を実施。またクロームブックを使用し、 プレゼンを積極的に作成し、G/Wのアウトプットの機会は増加した。 掲示物として公に見える化することもやはり大事なことでありと今年度は 逆に思った。</p> <p>⑤ 一つ一つの活動の重点目標の繋がりを踏まえ、年間の運営を意識する ことにより、年間を通して育てる生徒像を明確に学年と部で共通認識して おく必要がある。探求活動において他学年と共通でプレゼンを実施した ことは大きな意義があったと思う。発達段階を意識し、手立てをさらに 練っていくことにより一層よい学びになると思う。生徒の生きる力向上に 寄与するのではないかと思う。</p> <p>⑥ 定番のコンテスト等は参加を継続していきたい。良い作品を発表鑑賞する 機会を設けていきたい。</p> <p>⑦ ワークシートの活用をさらに工夫し、自己分析を一層おこなわせたい。 年三回の生活アンケートにおいても生徒は正直に振り返りをおこなって いる。それらをどのように生徒たちにフィードバックし、育成していくかを 教員のやりがいのひとつにしていきたい。</p>	<p>A 35%</p> <p>B 48%</p> <p>C 4%</p> <p>D 18%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊研修等、しっかりと準備して実施できている。 ・ 校内外の学習活動において、随時指導がなされていたと思う。 ・ 青藍祭等学校行事での活動が活発になってきている。 ・ 研究発表の機会を通して、課題と向き合い、解決に向けた努力 を、仲間と協力して行うことで人間力を養った。 ・ 高等学校へのステップを経て、大学進学をめざす意識づけがで きる。 	<p>A 50%</p> <p>B 50%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 表現力を養う上でよい取り組みであろう。青藍祭の他にも発表できる場が あればそのようなところでもアピールすることはよい試みとなるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の充実には目を見張るものがある。 ・ 特別活動や課外活動が充実していると思う。 <p>◇ 探求活動やプレゼン等の学習に今までとおり力を入れていってほしい。</p> <p>◇ 青藍祭の活動等中高一貫の良さを活かしてさらに充実させていってほしい。</p>
V 家庭・地域との 連携	対話の増加	<p>① 面談の奨励(希望面談も用意)【4回/年】</p> <p>② 懇談会・保護者会等実施</p> <p>③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信 【2週間以上前】</p> <p>④ 内進高校生の情報も含め生徒・ 中学部近況の発信 中学部だよりや説明会等の活用</p>	<p>① 4月新年度個別面談、7・8月夏休み三者面談、11月個別面談、 6・11月オープンキャンパス期間希望面談、11月～2月適宜個別面談 による進級指導等実施。特にJ3に関して高校進級指導を念入りに実施。 カウンセラー・養護教諭と連携し、家庭とのコミュニケーションにも注意した。</p> <p>② 6月 地区別懇談会(交通安全対策・夏期の準備)、 9月 J3修学旅行説明会、11月J3進学説明会 2月 学年学級懇談会 参加率5～7割前後</p> <p>③ 各行事2週間前後前に通知を配布。さくら連絡網による通知は常套 手段として活用した。</p> <p>④ 3月J2J3対象に大学進学の基本や現状について進路課長より説明した。 目標の再確認と進路意識の高揚を図った。 内進生の進路啓発機会は早期から発達段階をふまえて確保したい。</p>	<p>A 28%</p> <p>B 50%</p> <p>C 4%</p> <p>D 18%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と生徒・保護者が密になっている。 ・ 中学部はどの学年部も密に保護者と連絡をとっているシーンが 多く見受けられた。保護者も協力的である。 ・ 大変充実していると思われる。電話対応なども非常に丁寧である。 ・ 日頃の活動におけるコミュニケーションを意識して行うことで、生徒 のわずかな変化にも敏感に対応できる体勢を整えている。 ・ ここ数年、家庭における親子間の会話が減少傾向にあると思う。 話題提供も学校側として不可欠な時代かと思う。 	<p>A 24%</p> <p>B 76%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>▲ 担任の先生によって(同学年でも)方針や指導方法にかなり開きがある ように思える。標準化とまではいかないが、一貫性は必要であろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション連携が上手く取れている様、先生がたも生徒に寄りそい 指導にあたられていると感じる。信頼や安心感につながっている。 ・ 面談回数も多く、保護者との連携がしっかり出来ているように思う。 <p>▲ パソコンの修理点検時の対応があまりにも遅かった</p> <p>▲ 保護者と連携を取りやすい環境にすべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各行事の連絡など保護者にとってありがたい配慮がなされている。 ・ 学校と保護者の関係強化に取り組んでいる様子がわかる。
	広報活動の充実	<p>① 中高通信文書等の発行【5回以上/年】</p> <p>② さくら連絡網・SNSの活用</p> <p>③ オープンキャンパスや説明会等での アンケート実施</p> <p>④ 行事や発表会の開放</p>	<p>① 月ごとに担当を決め、近況を伝えながら、啓発と学校理解を促進した。 お勤めの本等も紹介し、知的好奇心も喚起した。</p> <p>② お知らせの配信や平時の連絡手段としても良く機能した。</p> <p>③ o/cアンケート内の各意見・提案や質問に対し適切に対応した。 参加率は50%弱であった。</p> <p>④ 青藍祭、体育大会、ダンスデイ、持久走会などについて開放。 ダンスデイは盛況だった。、フィールドワークのプレゼンは未実施。 MIRAI Projectの発表等探究活動の成果発表の機会について 検討していきたい。</p>	<p>A 33%</p> <p>B 50%</p> <p>C 4%</p> <p>D 13%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸行事を通し、精力的に実行されている。 ・ 明誠ニュースなどの紙面が生徒が具体的なコメント(記事)を 寄せていて読みごたえがあり、充実している。 ・ ホームページ等でもっと魅力を発信したい。 ・ さくらメールや、学年通信を通じて、十分とはいえないまでも、必要 な連絡は行うことはできた。 ・ ホームページなどに日常生活の様子を掲載すると保護者や、 小学生にも学校の様子がわかるように感じる。 <p>◇ ホームページ等を利用しての日常の学校や課外活動を可視化 してもっと知らせるべきではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単願生徒を増やすため塾訪問や学校へのアプローチをもっと 増やすべき。 	<p>A 24%</p> <p>B 76%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 競合校との特色の違いをさらに打ち出す広報が必要かと思う。HPだけだと 少々伝わりにくいところがあるとの意見も耳にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな行事が開放されており、見に行ける機会が増えてよい。 ・ 男子生徒は通知を保護者に見せないことがよくある。さくら連絡網の活用は とてもありがたい。 <p>▲ 未だHPの活用は課題である。</p> <p>◇ 行事をそれだけで終わらせない工夫をしてほしい。</p> <p>▲ 他校と比較してHPの更なる充実が図られるとよい。</p>

VI 生徒募集	渉外活動の充実	<p>① 説明会、体験入学／学習会 講習会 オープンテスト 等実施 アンケート結果の活用(改善・FB・PR等) 現役生徒の活用 名簿の整理、DMの活用</p> <p>※実績数()内数値は昨年度の数値を表す</p> <p>② 小学校や塾への渉外活動</p> <p>③ 各種行事の活用</p> <p>④ リーフレット・ポスター作成 グッズの活用</p>	<p>①・説明会 5/13:50(40)名、6/24:63(61)、7/29:49(76)、8/5:70(85)、 8/26:34(50)、10/7:85(84)、11/3:100(50)、11/12:8(110) 昨年度同様オープンテストや体験学習会と同開催した。また、 生徒を登壇させ保護者に訴えかけた。今年度は最後の2回は 新規に入試説明会、直前相談会の順序で実施したため、実績が 目立って相違している。延べ数では夏休み中と最後2回の 影響でトータルの来校者数は減少した。 前年比 83%</p> <p>・6年理科体験学習会 8/26 : 32(37)名 前年比 86%</p> <p>・講習会 ①9/13 :49(49)名、同時期実施 ②10/18 :58(59)名、同時期実施 前年比 99%</p> <p>・オープン①8/5 :83(85)名、同時期実施 ②10/7 :96(81)名、同時期実施 ③11/3 :92(84)名、同時期実施 前年比 108%</p> <p>・入試 一次 75(79)名 :単63(58) 併12(21) 二次 2 (5)名 :単 2(5) 前年比 92%</p> <p>募集定員70名になり6年目、65(62)名入学予定。併願が9名減少。 単願率が84(75)%で、一昨年度並みに戻った。女子は42(52)%に 減少した。受験者数は若干減少したが、単願率が回復し、 併願生の戻りが4名いたことにより、入学者数は若干増加した (手続き後1名辞退)。受験者数・単願者数の増加が望まれる。</p> <p>・4・5年説明会 7/29(土) : 49(76)名 日時三週間繰延 11/25(土) : 約50(50)名 日時ひと月繰延 2/10(土) : 約100(100)名 日時二週間繰上</p> <p>・4・5年体験学習会 理科 7/29 : 50(67)名 前年比 75% 英語11/25 : 49(36)名 前年比 136% 理科 2/10 : 88(94)名 前年比 94%</p> <p>実施日時、各学年の来校者等注意していく必要がある。</p> <p>② 小学校訪問約100校。 5・6月(学園祭前)・7月(理科体験前)・ 10月(英語体験前)・2月(理科体験前)等を基本として訪問。 5月は訪問約束を行った上訪問。 志穂・小笠・静岡地区諸々の塾を訪問。「学校案内」・「入試行事 リーフレット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助 案内・過去問題等配布。また行事の都度DMを送付。</p> <p>③ 学園祭、定期演奏会等学校関係者に対して招待した。</p> <p>④ 入試行事年間予定リーフレット、各種リーフ(講習会・オープンテスト・ 体験学習会・通学補助支給等)をひと月以上前から配布ないし 送付した。体験学習会用自家製ポスターを校外で適時掲示推進した。 今年度より中学校の学校案内を作成活用した、</p>	<p>A 37%</p> <p>B 43%</p> <p>C 7%</p> <p>D 13%</p>	<p>・オープンテストを通して、渉外活動は充実している。 ・大変充実している。</p> <p>▲理科体験学習は多くの児童を集めることができ、効果的だと思う。 一方で一部の先生に負担が集中しているので実施方法については 検討が必要。</p> <p>・1年間を通して、募集活動(学校説明会や体験活動)が進められて いる。</p> <p>◇新入生にアンケートを実施したり在校生に企画提案をお願いしたり して、施策の選択と集中についてよく考えたい。</p> <p>・理科体験等、とても良い。</p> <p>・贅沢な環境にはないが、入試問題、その他のテストも検討は高校部 と連携し、丁寧に行っている。</p> <p>▲オープンテストの開催日程が詰まっていた準備に大変だった。</p> <p>◇ホームページを充実させ、生徒の生き生きとした校内外での活動 をさらに発信できないものか。</p> <p>◇各種体験授業も多くの先生にあらゆる角度から(あらゆる教科) で行った方がよい。</p> <p>◇総受験者数を増やすために塾への訪問や、小学校へアプローチ をもっとするべき。</p>	<p>A 12%</p> <p>B 88%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇理科の体験学習は高い人気がある。英語も面白いのではないかと。 在校生の声は保護者にとって判断材料として重要だと思うので、 活用することが望ましいと思う。</p> <p>◇体験学習がいろいろな教科に参加できる方がよいと思う。</p> <p>◇理科の体験学習がとても効果的であると思う。一部の教員に負担に なるのであるなら、改善すべき。</p> <p>◇塾や小学校の訪問は希望生徒増加につながっているかは不鮮明では。 ・教育の質の向上と共に進路の充実、そしてそれらが募集の拡大に つながる。</p>
VII 教育施設・ 設備の活用	快適な教育環境の 実現	<p>① 教室内外整理整頓、施設管理、 電源管理の徹底、管理目的の理解 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>② 駐輪場管理</p> <p>③ 設備・備品の保全 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】</p>	<p>① 通年整理整頓の指導を継続することができた。一方テスト中や実技の 道具や作品がある時、体験学習の会場になった教室等ロッカー内が すし詰め状態になりやすいが、その際にも整理整頓にはルールがあり、 指導をふまえて生徒に実践させる必要がある。 移動教室時の机上片付けや更衣の整頓、電源管理等十分ではないこ とも課題として残る。 清掃後の雑巾洗いと整頓については注意していきたい。</p> <p>② 今年度は目立った問題等特になく、一年間推移した。自転車利用者 の関係もあると思う。現状把握を怠らず、使用方法について時折 注意喚起し、トラブルの予防をしていきたい。</p> <p>③ 不適切な使い方をする生徒はほほいしないものの、 清掃用具・備品・用具入れの破損、電源スイッチや壁の破損等 時折見られたことについては念頭に置いておく必要がある。 机椅子の保全については昨年度も記載したように、表面の消耗が ここ数年で目立って進行している印象を受ける。再び持ち上がり式 に戻していくことも検討する必要がある。</p> <p>④ 5・9月防災避難訓練実施。ともに一次・二次避難訓練実施。 9月は避難経路を変更。</p>	<p>A 28%</p> <p>B 43%</p> <p>C 19%</p> <p>D 10%</p>	<p>・適切な修繕が行われており、充実度は高いと思われる。 ・数十年の年月は経過しているが、落ち着いて生活ができる 環境が守られている。</p> <p>・充分な施設環境で教育できている。</p> <p>・現在進行中の空調の工事には期待を持ちたい。</p> <p>▲施設・設備面での老朽化は否めず、地域の近隣の学校に対して の教育環境の面で見劣りがするように思う。</p> <p>◇防災教育をより一層充実させたい。</p> <p>▲快適な環境を実現は高校頼みになっているのでは。</p>	<p>A 12%</p> <p>B 76%</p> <p>C 0%</p> <p>D 12%</p>	<p>◇エアコンの整備は引き続き滞りなく進めてほしい。ICTも同様である。 ・施設の修繕を前回の意見を取り入れ実施してもらえ、たいへんよかった。 ◇先輩方が過ごしてきた環境の中で生活している自覚と感謝の心がもてる 中学生が育つことを願う。</p> <p>▲施設は十分整っているとは思えない。近隣校と比べると私立のメリットが 薄くないか。</p> <p>◇備品の使い方や清掃の仕方など中学部時代からいねいに指導して いくとよい。</p> <p>・教育環境の充実がはかられていると思う。</p>